

Broaden your horizons 98 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。
皆さんが受けられた国家試験は“第何回”でしょうか？今年の「第99回国家試験」も、卒業留年生が増え、受験者数が絞られ、試験問題が“大難解”でした。ですから、「サクラ咲く」(合格)新人薬剤師は厳選された人たちです。優秀ですよ～(笑)。

さて、国家試験のどこが難しかったのかといいますと、まず、計算問題が1.5倍に増えています。そして、薬学部では物理好きな学生の希少性が高いにもかかわらず、物理化学の難易度がさらに高くなり、正答率が30%台とさらに低くなっています。次に、薬理学では、薬物は通常4、5年経ってから国家試験に出題されるのですが、フェブキソスタットやラスブリカーゼ、トラマドールなど「早々(そうそう)たる顔ぶれ」です。何とミノキシジルも出題されました。

昔はなかったのですが……。薬物治療学は、薬剤師がチーム医療の中で医師や看護師と協働するために必要とされた試験科目で、今はすっかり定着しています。6年制を機に出題数が増える一方で、難易度が高くなっています。薬物治療の知識だけでなく、その知識を使って「提案できるか？」が問われます。良い問題ですが、学生には難しかったことでしょう。法規も副作用報告の出題が多く、実践的な薬剤師を輩出するため、現場主義的な出題が増える傾向にあります。「複合」として、6年制から実務と他の科目を合わせた連問が出題されるようになりましたが、それが2連問から3連問、そして4連問まで出題されるようになっていきます。

今回の国家試験のキーワードは「考える」だと思います。今の学生は受け身です。やるべきことを自分で探すことなく、ひたすら指示を待ちます。言われた仕事を確実にこなすことは当たり前です。自分で仕事を見つけるか、言われた仕事にプラス α を付けるかで、「仕事ができる」と評価されます。これからの薬剤師に求められているのも「考える」です。薬剤師に何ができるのだろうか、何をすればよいのだろうか、考えていっちゃるでしょうか？変化はチャンスです。チャンスはつかまないと逃げていきます。これまでの薬剤師は日本の美德とされた「奥ゆかしさ」を大切にしてきましたが、一歩前に出てチャンスをつかみにいきませんか？

お知らせ メディセレのHPで「第99回国家試験」の問題をダウンロードできるようにしました。ぜひ、ご挑戦ください。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子